

2021年度 保育所・保育士の自己評価

まつやま大手町保育所
評価責任者 園長 岡田 真由美

「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と保育指針に明記されています。この事を踏まえ、まつやま大手町保育所ではこれに基づき検討し、保育の質の向上を図る為、保育所及び保育士の自己評価を実施しました。

今後はこの結果を踏まえ、次年度の保育計画・保育内容等の改善に活かし、改善していく事で、保育所の専門性・組織力を高め、保護者の皆様や 地域の皆様との信頼関係がより良く深まるよう努めてまいります。

2021年度、保育所及び職員の自己評価についてご報告いたします。総合評価は最後に記載しています。職員が1年間を振り返り、評価をする事で新たな課題を見つけ、園の運営や経営に役立てればと考えております。引き続き、来年度も職員一同、心を1つにして未来ある子ども達のために笑顔あふれる保育に努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

まつやま大手町保育所の自己評価

【評価の基準】

- A 大変良くできている
- B できている
- C 概ねできているが、今後に向けて改善する余地がある
- D できていない、要改善

| 項目 | 評価内容 | 評価 | | | |
|-----------------------|---------------------------------|----|---|---|---|
| | | A | B | C | D |
| に 保 育 目 標 | ① 保育方針・保育目標は職員間で共通理解を図っている。 | ○ | | | |
| | ② 保育方針・保育目標が活かされるような保育内容を考えている。 | | ○ | | |
| | ③ 目標は前年度の反省を活かしている。 | ○ | | | |

○評価の根拠●改善策

○保育所保育指針に基づき、全体的な計画・年間指導計画・月案・週案・日案を作成している。
○前年度実施した保育内容を見返すと共に、その年齢ごとの子供の育ちを把握し、個々の子供たちに寄り添える保育の計画・実施に努めている。
●日々の保育について保育士全体での共通理解を深めるため勉強会などをルーティン化し、実施した事で改善されつつあるが、課題も多くある。考えた内容と実践した事が乖離する事にならないよう、引き続き主任保育士を中心にチェック・精査していく。また、個々の保育士が真摯に保育に向き合える機会や場面を提供できるようにしていきたい。

| 項目 | 評価内容 | 評価 | | | |
|--------------------------------------|---|----|---|---|---|
| | | A | B | C | D |
| 保 育 内 容 に つ い て | ① 計画指導は乳幼児の実態に配慮して作成している。 | | ○ | | |
| | ② 保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。 | | | ○ | |
| | ③ 子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができ、見通しを持ちながら進めているか。 | | | ○ | |
| | ④ 環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。 | | | ○ | |
| | ⑤ 素材・用具を適切に活用しているか。 | | ○ | | |
| | ⑥ 園内研修や評価結果を基に保育の改善に努めている。 | | ○ | | |

○評価の根拠●改善策

○前年度の反省を活かし、さらに園内研修内容を充実させた勉強会にと主任保育士を中心に週1回ペースでの勉強会を1年通してコンスタントに実施できた事は良かった。新たな試みとして、保育ドキュメンテーション研修やビデオ研修を取り入れ実施。毎日のブログは保育ドキュメンテーション研修が活かされていると感じる。
●前年度の反省や今年度の課題についての取り組みが活かされている職員と改善が必要な職員のスキルの乖離を少なくしていく施策を講じ、職員全体でフォローし合える保育を実践していきたい。
●実際に提供した保育が、その月齢に見合った環境の構成や素材・用具でなかったという場面があったのは否めない。保育士自身のスキルの向上を引き続き図っていくと共に、2022年度は、年間を通して『環境』を課題として全職員で取り組んでいく。

| 項目 | 評価内容 | 評価 | | | |
|----------------------------|--|----|---|---|---|
| | | A | B | C | D |
| 食 育 に つ い て | ① 食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせ、食育計画を立て、実践している。 | ○ | | | |
| | ② 旬の食材や行事食を取り入れ、様々な食材に触れ、味わえるようにしている。 | ○ | | | |
| | ③ 評価結果を元に食育の改善に努めている。 | | ○ | | |

○評価の根拠●改善策

○屋外遊技場にて季節の野菜を栽培し、子供たちと一緒に収穫のうれしさやとれたての野菜の味を楽しめるようにしている。
○季節や献立に合わせて、様々な食育イベントを企画実施しており、子供たちの食への意欲につなげている。
●アンケートでは食事やおやつを楽しみにしているという項目で改善の余地がある回答があった。個々の子供たちの「食」について職員全体で理解し、話し合いをする時間が少なかったと感じる。

| 項目 | 評価内容 | 評価 | | | |
|-----------|---|----|---|---|---|
| | | A | B | C | D |
| 保育・行事について | ① 1日の流れ(デイリープログラム等)は現行で良いか。 | ○ | | | |
| | ② 乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしている。 | | | ○ | |
| | ③ 行事のねらいや実施回数などの内容を検討し、改善に努めている。 新型コロナウイルス感染拡大の影響で制限のある活動となったが、制限下の中でもできる事を考え活動できたか？ | ○ | | | |
| | ④ 計画・実施・評価・改善の体制をとっている。 | ○ | | | |
| | ⑤ 保護者の願いや意見を取り入れている。 | | ○ | | |

○評価の根拠 ●改善策

○新型コロナウイルス感染の影響で季節時の行事やイベント(月1回程度実施している公開保育も含む)は、回数が制限されたものとなったが、3密回避や内容を考えて実施する事ができた。コロナ渦だからと諦めずに新たな試みも実施する事ができて良かった。
○公開保育ができない分、保育所のブログを毎日更新したり、動画をHPで閲覧できるようにする事で子ども達の日頃の様子を伝える事ができた。
●各年齢ごとに、子供たちの育ちを捉えながら無理のない活動ができるようにしているが、その活動が年齢に見合ったものであるか、今、その活動が適切であるか精査する必要がある。
○勉強会では、保育に関しての振り返りの習慣は身に付きつつある。全体の流れや保育士間の動線についての意識共有も見られるようになった。
●勉強会後の次の課題を見つけてPDCAサイクルの「実践→改善」の取り組みに関しては引き続き意識改善が必要。

| 項目 | 評価内容 | 評価 | | | |
|-------|---|----|---|---|---|
| | | A | B | C | D |
| 組織・運営 | ① 職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜むことなく施設の運営に携わっているか。 | ○ | | | |
| | ② 職員間の連携がとれ、報告・連絡・相談等ができ、協働できる体制になっている。 | ○ | | | |
| | ③ 係や仕事の分担・割り当ては適切か。 | ○ | | | |
| | ④ 職員の意見を聞いたり、話し合う場を定期的に持っているか。 | ○ | | | |
| | ⑤ 打ち合わせ回数・時間・内容は適切か。 | ○ | | | |
| | ⑥ 年齢別目標は、保育目標や乳幼児の実態に即して設定しているか。 | | | ○ | |
| | ⑦ 意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。 | | ○ | | |
| | ⑧ 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。 | | | ○ | |
| | ⑨ 評価・資料(記録)を集積しているか。 | ○ | | | |

○評価の根拠 ●改善策

○各担当年齢の今の状況や今後の保育についての見直しなどを職員会・週1回ペースの勉強会で話し合いをコンスタントに実施。
○前年度の勉強会の内容を精査し、ブラッシュアップして新たに保育ドキュメントや保育活動をビデオ撮影し、振り返りを行なう研修を取り入れた。
●話し合った内容を実践して確認している姿が不十分だと感じるため、その取り組みが分かるような週案・個人別にシートを修正し、2022年度から運用予定。個々のスキルの差の乖離がなくなるようにしていく必要がある。また、経験年数の浅い保育士は失敗を恐れず、自分で考えて動くという事を気持ちが維持できるよう働きかけていく。
○各年齢での園外保育実施や保育士の研修時等では、保育士の配置人数を増やす等、柔軟かつ臨機応変に対応できる体制にある。

| 項目 | 評価内容 | 評価 | | | |
|---------|---|----|---|---|---|
| | | A | B | C | D |
| 保健・安全指導 | ① 危機管理意識を持ち、緊急時の対応できる体制・マニュアルの作成、保健対策を講じているか。 | ○ | | | |
| | ② 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。 | ○ | | | |
| | ③ 保育士・調理員が連携し、アレルギー児や提供方法等に対応する環境・体制にあるか。 | ○ | | | |
| | ④ 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。 | ○ | | | |
| | ⑤ 乳幼児の安全のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。 | ○ | | | |

○評価の根拠 ●改善策

○感染症・アレルギー・事故防止及び発生時のマニュアル・交通安全指導・避難訓練の年間計画を作成。それを基に対策・訓練の実施。
○アレルギー児の把握(2021年度は対象児なし)。食器の個別化徹底。除去食メニューを作成(松山市公立保育所メニュー)している。
○年2回の健康診断(歯科検診は1回)と、毎月の身体測定を実施。
○前年度の反省を踏まえ、訓練内容を見直し、安全訓練計画(非常災害・生活安全・危機管理の3点)を立てる事はできた。
●監査時に指摘された毎月消火器を使つての訓練を追加して年間計画を再精査予定。
○新型コロナウイルス感染が園児に出た際は、安全確保の為、園でできる事(園消毒作業、関係機関や保護者との連絡・保育所の運用についての周知)は円滑にできた。

| 項目 | 評価内容 | 評価 | | | |
|----------|--------------------------------------|----|---|---|---|
| | | A | B | C | D |
| 園内外研究・研修 | ① 研修・研究は保育目標の具体化につながるものであるか。 | ○ | | | |
| | ② 所内研修の計画・運営は適切か。 | ○ | | | |
| | ③ 研究・研修の成果を日常保育に活かし、乳幼児の育ちに反映できているか。 | | | ○ | |
| | ④ 各種研究会・研修会・講習会等への参加体制ができていないか。 | ○ | | | |
| | ⑤ 各種研修会・講習会等での内容を所内に報告・還元しているか。 | ○ | | | |

○評価の根拠●改善策

○新型コロナウイルス感染拡大の為、多くの研修が中止・延期となったが、園内研修の充実化を図る事ができた。週1回ペースで継続的に実施。
●職員も積極的に研修・講習会に参加し、保育の質の向上及び自己研鑽に努めているが、全職員が同じ意識で取り組めるよう意識してもらう必要がある。

| 項目 | 評価内容 | 評価 | | | |
|------|--------------------------------|----|---|---|---|
| | | A | B | C | D |
| 園内情報 | ① 乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。 | ○ | | | |
| | ② 公文書收受・発送・処理を適切に行っているか。 | ○ | | | |
| | ③ 各帳簿は、適切な方法で作成・処理しているか。 | ○ | | | |

○評価の根拠●改善策

○子どもの情報等は、守秘義務とプライバシー保護の観点で職員会等で全員(参加できないパート保育士は個々に)に周知し、個人情報に関する書類等は鍵付の棚で保管する等の配慮をしている。

| 項目 | 評価内容 | 評価 | | | |
|-------|--------------------------------|----|---|---|---|
| | | A | B | C | D |
| 施設・設備 | ① 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。 | ○ | | | |
| | ② 遊具・用具等を活用しやすいように整理・保管されているか。 | ○ | | | |
| | ③ 掲示板・掲示場所を適切かつ効果的に活用しているか。 | ○ | | | |

○評価の根拠●改善策

○遊具や玩具の点検(チェックシートの作成)や消毒を行い、整理整頓を定期的に行っている。
○感染症の流行の進捗状況や保護者へのお願ひ等の掲示は口頭以外での周知に役立っている。

| 項目 | 評価内容 | 評価 | | | |
|---------|--|----|---|---|---|
| | | A | B | C | D |
| 園外交流・情報 | ① 積極的に地域の文化や生活に触れ、地域との関係が適切に保たれている。 | | ○ | | |
| | ② 乳幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。 | | ○ | | |
| | ③ 事業所職員の保育体験及び保育施設見学会を受け入れる時は、その目的や目的や意義を理解・確認しているか。 | | ○ | | |
| | ④ 保育所から各種便りを定期的に発信しているか。 | ○ | | | |
| | ⑤ 保護者などから問い合わせがあった場合に、自園または地域の子育て資源に関する情報を提供しているか。 | ○ | | | |
| | ⑥ 医療機関・児童相談所等の専門機関及び提携園について保護者にとって必要な情報を提供しているか。 | ○ | | | |

○評価の根拠●改善策

○事業所内保育所である利点を生かして、柔軟に保護者に園行事に参加を促すと共に、行事には事業所社員にも参加の協力をお願いし、触れ合う機会を相談している。今年は新型コロナウイルス感染拡大の為、3密を避け、ソーシャルディスタンスに考慮したイベントを実施。(Xmas会での劇・もちつき・オープスタジオ前での子ども獅子舞の披露やプランターの植え付け作業等)
○事業所である愛媛CATVの社員研修の一環に保育所体験(2021年度は2名別日に実施)を行ったり、他企業・学生からの保育所見学会をWEB撮影にて受け入れている。
○毎日、ホームページにて園生活を公開し、より具体的に園での様子をみていただけるようにしている。また、松山市・保育幼稚園課からの周知事項や園だより等の各種たよりを定期的に保育所側から発信している。
○保護者からの要望があれば、関係機関と連絡し、情報を提供する事ができる。
○園児が新型コロナウイルスに感染し、臨時休園となった際は、保護者・市・保健所との連携や情報共有も滞りなく行えた。
●新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年同様、人との接触は極力控えるようになった為、地域との交流はあまり持てなかった。

| 項目 | 評価内容 | 評価 | | | |
|-----|---------------------------|----|---|---|---|
| | | A | B | C | D |
| 評価部 | ① 地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。 | | | | |
| | ② 苦情解決の体制づくりはできているか。 | | | | |

○評価の根拠●改善策

○保護者アンケートを実施し、改善の努力をしている。
※当園では第三者評価は導入していません。

まつやま大手町保育所の保育士の自己評価

【評価】

- A おおむね達成できている
- B 達成に向けて取り組んでいるが、まだ課題が残る
- C できていない

【回答者】
保育士7名

| 項目 | 業務内容 | 評価内容 | | |
|----------|---|---------|---------|---------|
| | | A | B | C |
| 保育について | ① 園の保育方針を理解して実践しようと努めている。 ※クラス担任の保育士は園の保育方針を理解して、各年間保育計画・月週案の内容や目標等を立て保育に従事できたか。 ※クラス担任でない保育士はクラス担任(常勤)の保育実践が円滑にできるように努めたか。 | 5 /7 | 2 /7 | 0 /7 |
| | ② 子どもの姿を的確に捉え、保育に必要な記録資料などの作成と活用を効果的に行っているか。 ※クラス担任でない保育士は、各クラス担任の上記内容ができるよう、協力できたか。 | 2 /7 | 5 /7 | 0 /7 |
| | ③ 子どもの成長発達について理解と認識を持ち、個々に応じた適切な対応ができているか。 | 1 /7 | 6 /7 | 0 /7 |
| | ④ 計画立案に基づいた保育、クラス運営をしているか。 ※クラス担任でない保育士は担任保育士や全体を見てフォローができるよう意識しているか。 | 3 /7 | 4 /7 | 0 /7 |
| | ⑤ 日々の反省を活かした計画立案や保育実践がなされているか。 ※クラス担任でない保育士は、毎月の保育反省の提出をしているか。 | 4 /7 | 3 /7 | 0 /7 |
| | ⑥ 子ども一人ひとりの目標と課題を明確にし、見通しを持ってかかわっているか。 ※クラス担任でない保育士は担任保育士が上記保育ができるよう情報の共有やフォローができているか。 | 1 /7 | 6 /7 | 0 /7 |
| | ⑦ 子どもの発達を促すための環境作りやかかわりを心がけているか。 | 3 /7 | 4 /7 | 0 /7 |
| | ⑧ 子どもの姿を見ながら、臨機応変・計画的に環境作りや援助を行っているか。 | 3 /7 | 4 /7 | 0 /7 |
| | ⑨ 玩具や遊具の安全確認・消毒及び掃除・整理整頓に努めているか。 | 6 /7 | 1 /7 | 0 /7 |
| | ⑩ 子ども達の手本となるような言葉づかいや立ち居振る舞いを心がけているか。 | 5 /7 | 2 /7 | 0 /7 |
| 安全管理 | ① 保育中の子どもへの配慮(かみつき・危険な行動等) | 4 /7 | 3 /7 | 0 /7 |
| | ② 園外保育における人数確認及び安全確認ができているか。 | 5 /7 | 2 /7 | 0 /7 |
| | ③ 園児の状態を指針・問診できているか。(表情・怪我・体調等) | 5 /7 | 2 /7 | 0 /7 |
| | ④ 遊具・備品等の及び安全確認・感染対策 | 7 /7 | 0 /7 | 0 /7 |
| 接遇・保護者対応 | ① 好感の持てる態度で保護者や見学者・来客等に明るく丁寧な対応ができているか。 | 6 /7 | 1 /7 | 0 /7 |
| | ② 保護者等の話をよく聞くなど、コミュニケーションをとり、安心して相談できる関係作りに努力しているか。 | 5 /7 | 2 /7 | 0 /7 |
| | ③ 保護者に対し、子どもの様子を分かりやすく伝えているか。(おたよりノート記入も含む) | 4 /7 | 3 /7 | 0 /7 |
| | ④ 必要な情報を収集し、自分の実践に活かしているか。 | 5 /7 | 2 /7 | 0 /7 |
| 職務 | ① 上司や先輩の指導・助言を受け入れ、実践しているか。 | 6 /7 | 1 /7 | 0 /7 |
| | ② 組織の規則や手続き、職場のルールを守って職務に取り組んでいるか。 | 6 /7 | 1 /7 | 0 /7 |
| | ③ 服装や身だしなみを整え、丁寧に礼儀正しい対応をしているか。 | 6 /7 | 1 /7 | 0 /7 |
| | ④ 職員間の必要な連絡・連携・報告はとれているか。 | 5 /7 | 2 /7 | 0 /7 |
| | ⑤ 与えられた仕事(日常・行事・雑用等)はきちんとできているか(正確さ・提出期限)。 | 5 /7 | 2 /7 | 0 /7 |
| | ⑥ 組織の一員である事を自覚し、周りの仕事にも自主的に協力しているか。 | 5 /7 | 2 /7 | 0 /7 |
| | ⑦ 自己の体調を管理し、他の職員に迷惑がかからないよう努めているか。 | 4 /7 | 3 /7 | 0 /7 |
| | ⑧ 職務上、知り得た情報の守秘義務の遵守し、子どもの人権に留意しているか。 | 7 /7 | 0 /7 | 0 /7 |
| その他 | ① 問題意識を持ち、専門書を読んだり情報を収集したりして、自己の保育力の向上に努めているか。 | 3 /7 | 4 /7 | 0 /7 |
| | ② 積極的に研修や講習に参加する等、保育について何らかの自己啓発(自己研鑽)に取り組んでいるか。 | 1 /7 | 6 /7 | 0 /7 |
| | ③ 新しい仕事や困難な仕事にも、失敗を恐れず、前向きに取り組んでいるか。 | 3 /7 | 4 /7 | 0 /7 |

■全体■

- ・コロナ禍でいかに子供たちが安全に楽しく園生活を送ることができるのかを考えた一年だった。あれも・これも感染の危険性があるとあきらめるのではなく、制限された活動の中で「できる事」は何かを考えていった。そうやってアイデアを出すことで、新しいイベントや保育活動などを提供することができたのは良かった。
- しかし、自分がアイデアを出してしまうことで他の保育士がそれに追従するという傾向が強くなってしまい、個々の保育士のアイデアを生み出す力を十分に引き出せなかったのは反省点である。
- ・クラスの子供たちに対しては、個々にも「個性」を大切に、子供たちの持つ力や面白さを引き出せるような保育を心がけた。今だけを見るのではなく、今をどう過ごすことで次のステップにどう進むのか、次に控えている課題は何なのか先の見通しをもってかかわっていくことを心がけた。子供たちが日々のびのびと笑顔で過ごすことができるよう保育ができたことは良かったと思う。
- ・今年はコロナで園外保育に出られる機会が少ない分、園でできるだけ楽しく保育活動ができるように努めた。
- しかし、イベントのリーダー時に取り掛かりの遅さや準備不足があり、リーダーとして行事全体を動かすための采配がうまくできず反省が多く残った。この反省を活かして今後の活動に努めていきたい。
- ・子どもたちとよりよい関係を築くことができ良かった
- ・昨年度の反省を踏まえて、広い視野で保育に取り組むことを意識した。保育士間で連携をとり、安全面に配慮する事が出来たのは良かった。
- ・子どもたち一人一人をしっかり見ていこうと思っていたが、視野が狭くなることもあり、子どもの姿や育ちを自分の目線だけで捉えてしまっていたように思う。
- ・コロナで研修の機会が少なく、今年度は一度歯科参加する事ができなかったため、来年度は積極的に参加し知識の幅を広げたい。

■勉強会■

- ・一年間を通して勉強会を実施し各保育士のスキルの向上を図った。勉強会も新しい手法を取り入れて、現場の保育に直結できるような研修内容を考えていったが、保育士によってその受け取り方が違い苦慮する面も多かった。今後はもっとひとりひとりが目的意識をもって研修に取り組み現場の保育に直結できるような研修を行っていききたいと思う。
- ・勉強会などで、各クラスの子どもたちの現状とねらいを知ることで共通認識を持つことができた。
- ・勉強会や日頃の保育の中で相談しやすい環境があった。
- ・勉強会ではたくさんのアドバイスをもらったが、十分にそれを自分自身の成長に活かすことができなかった。勉強会に参加し、みんなで意見交換をすることで、自分自身が分かったつもりや出来ているつもりになっていたが、そうではなく、それを自分自身が保育現場にどうフィードバックできるのかを考えていきたい。そのために、日々の活動の振り返りや相談をしっかり行っていきたい。
- ・勉強会で自信の至らない所や子どもたちの関わりに対して改善すべきところを指摘してもらったり、自分自身でも考えたりしていきながら、少しずつでも保育士として成長できるよう努め、子どもと共に歩んだ一年だった。

■フリー保育士の立場として■

- ・短時間勤務の中で、小さなことでも前日の反省を次の勤務で改善しようと行動してできることも増えてきた
- しかし、担任の先生に自分から積極的に声をあげて子どもたちの姿を聞く姿勢は弱かった。短時間の勤務だからと言う消極的な思いがあったのは反省点だ。
- ・フリーとして全ての子どもたちの育ちを正しく認識し、より細やかな配慮や気づきができるよう取り組んでいきたい。
- ・フリーとして0歳児に入ることが増えたが、先輩保育士が日々行う積み重ねる保育やそれに伴う子どもたちの姿に学ぶことが多くあり、自分の保育を振り返るきっかけになっている。
- ・園の行事や日常生活に直接接する時間が少ないため、全体的な判断が難しく感じることはあるが、出来る範囲でがんばりたい。
- 自分にできる事を心をこめて、今できる事を・私にしか出来ない事を自信をもって実践していきたい。延長保育の子どもたちとの限られた時間を大切に保育を実践していきたい。安全管理の徹底を行う。

【総合評価】

1. 園全体の評価

開園5年目にあたる今年度は、昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染・拡大の影響で、園外保育や公開保育が制限された年となりました。

コロナ渦でも子ども達が安全に楽しく園生活を送る事ができる為に、保育所として何が出来る事はないかと考えながら保育に取り組んできました。職員間でアイデアを出し合い、コロナ渦だからこそできる新しいイベントや保育活動を提供したいという思いから、屋外遊技場での秋のな収穫祭や壮大な12月のイルミネーションイベント・貸し切りバスをレンタルしてのお別れ遠足等、実施することができました。コロナ渦前の園生活とまではいきませんが、子ども達の為に保育所としてできる精一杯の事を・・・と思う職員の熱い気持ちは子ども達や保護者の皆様にも伝わったのではないかと考えています。

昨年からの課題である保育の質の向上や職員のスキルUPの為に、主任保育士主体での園内研修をさらにブラッシュアップして実施しました。新たな試みとして、保育ドキュメンタリー研修とビデオ研修(保育活動を撮影し、全体で話し合い振り返る研修)を取り入れました。園内研修は、継続して週1回ペースで実施する事ができ、日々の保育の振り返りや保育活動の反省、次回へ向けて何が課題かを明確化できた研修となったと考えています。

公開保育は、親子散歩・ミニXmas会・ミニ卒園式と3回のみとなりました。日頃の子どもの様子の見て頂く機会が減った分、保育所のブログを毎日更新し、松山祭りのWEBの参加動画や運動会の様子をHPで閲覧できるようにしました。日頃の楽しく笑顔で過ごしている子ども達の様子をお伝えする事はできたと思います。

毎年実施している保護者アンケートでは、2021年度は、数少ない公開保育の参加が直前での周知となったので参加できなかったのが残念だったという指摘と、楽しい給食やおやつの様子が伝わっていなかったと回答がありました。公開保育に関しては、来年度は年間スケジュールをあらかじめ決めて、給食参観を入れたいと考えています。

2. 来年度の課題

研修を通して、日々の保育での課題の中で、乳児保育において配慮すべき環境(素材の選定・提供や環境構成も含む)がいかにか重要であるかという事を再認識しました。1年を通しての『環境』について、園全体で取り組んでいこうと考えています。職員が建設的な意見を出し合い、自発的に考え取り組めるよう、各自が意識を持つ事も課題だと思っています。常勤保育士だけでなく、パート保育士も含め、全職員で意識を持って取り組む事ができるような保育所にしていきたいです。

3. 最後に

今年度は新型コロナウイルス感染で2度の臨時休園となり、保護者の皆様には大変ご迷惑をおかけした事を改めてお詫び申し上げます。園での再発防止対策は継続して徹底していきます。

2022年度の4月は、0歳児1名・1歳児5名・2歳児4名の計10名の賑やかなスタートとなります。

10名と小規模な保育所であるからこそ、家庭的できめ細やかな配慮とその時々に応じた臨機応変で柔軟な保育が提供できると自負しています。

今の現状に満足する事なく、引き続き、保護者の要望や希望を聞く機会を多く設け、保育理念にもある子ども達にとっては「豊かに生きる力」が育つような様々な経験ができる保育所、保護者の皆様にとっては「安心して預けられる保育所」となるよう、さらなる努力をまいります。

子ども達・保護者の皆様・職員・地域の方々の皆が笑顔になれるような保育所になるよう、これからも職員一同精進していきます。